

わんぱく学園ニュース

令和4年 4月・5月号

No.211

今回は、不肖副理事長の私 常賀 信寛が理事長の代行で文章を書きました。理事長の指導のおかげで作れました。

相撲のご縁でしょうか？九州の友人から久しぶりのお便りをいただきました。

今回は大関正代のふるさと宇土からのお便りです。

応援している正代・・・その優しさからくるのでしょうか？この地位が最高ですね。人生 いい時も悪い時もあります。

竹笛のごとく、その音色に耳をそばだてると聞こえてくる声があります。

そう！人生の音色です。

群れる鳥 目指すは 竹笛の音色かな

毎夕、繰り返す出雲の散歩・・・人生の声、竹笛にひかれて歩んでみました。

足元に咲く「フリージア」の甘い匂いと重なりました。

そう、もうすぐ春・・・人生の春を感じた散歩でした。

この便りをくださったのは草野民生さん。

草野さんは宇土を中心に活躍しているひとです。草野民生さんのおかげでたくさんの方が舞台をつとめました。

～常賀 信寛～

わが人生は竹笛のごとし

草野 民生

懐かしい響きは「タケブエ」の音です。

故郷、九州熊本。県南とは言え降雪は無かったものの寒さ厳しいこの月、3月半ば穏やかで優しい陽射しを浴び、たたずむ、耳を澄ませば早春のそよ風にのって、あちらこちらで、響く鳥の声「ホーホケキョ」

「チィチィ」まさに我が世の春。小鳥のさえずりに誘われ、かじかんだ唇をとがらせ小鳥の鳴きまねをしてみる。なかなか上手く行かない。早い春のウグイスかと・・・鳴きがおぼつかない。梅や庭先の花々の淡い香りにさそわれ小鳥や小さな虫たちが踊りだす。

とりわけ、フリージアの甘い香りは感動的だ、こんな小さな花房から、何のために、誰たちのために優しい香りを放つのでしょうか。

私の心は、小鳥になってしまう。

昔（子供の頃）父が今みたいにゲーム器など勿論無かった時代、もっぱら自然相手の山や川が遊び相手でした。そんな時代に父が小さな竹を細工して「タケブエ」を作ってくれた。当時を思い出し、私なりに作ってみた。

今もキーホルダーとしてポケットに忍ばせている。

「鳴き声の」所在が分からぬ様に「タケブエ」を吹いてみる。春の小鳥になった様な気分になったり、過ぎ去った遠い昔の童心に帰った思いをしたり、フリージアの香りに包まれて、わたしの心はフリージアの花言葉のようにあどけない少年になりました。

■ 4月&5月の「わんぱく学園」活動について

MEMO

4月・5月のメニューについてです。毎週日曜日、午前10:00～12:00まで開催しています。すべてコロナ感染防止のための企画であり、担当者も未定のため、必ず事前に事務局までお問い合わせください。ただし、参加費は一人100円です。100円で参加できます。

事務局：常賀（つねよし）

連絡先：080-3056-1175

*集合時間：9時50分 集合場所：指定の場所へ来てくださいね。

問い合わせ&発行元

〒691-0031 出雲市東福町156-1 NPO法人サポートセンターどりーむ

TEL & FAX : 0853-62-4872 メール : art-art@amail.plala.or.jp

アーティスト紹介 【井上郁夫 プロフィール】

優しく力強いアーティストとして活動中。

54年に出雲に生まれ、

72年に高校生の時に少年ジャンプ賞受賞

平成20年 平野勲漫画大賞受賞 その外受賞多し、キャラクターの話し声が聞こえてくるような作品を目指しています。



井上郁夫 作:フリージアの花

フリージア